

# 平成21年7月期 第3四半期決算短信

平成21年6月12日

上場取引所 JQ

上場会社名 株式会社 イチヤ

コード番号 9968 URL <http://www.ichiya-group.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 山本 真嗣

問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部長 (氏名) 橋田 宗人

TEL 088-823-2638

四半期報告書提出予定日 平成21年6月15日

配当支払開始予定日 —

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成21年7月期第3四半期の連結業績(平成20年8月1日～平成21年4月30日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
21年7月期第3四半期	809	△4.1	△533	—	△565	—	△729	—
20年7月期第3四半期	843	0.0	△679	—	△666	—	△864	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
21年7月期第3四半期	△0.61	—
20年7月期第3四半期	△0.73	—

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
21年7月期第3四半期	4,939	4,809	96.4	4.02
20年7月期	5,768	5,573	94.8	4.61

(参考) 自己資本 21年7月期第3四半期 4,763百万円 20年7月期 5,467百万円

## 2. 配当の状況

(基準日)	1株当たり配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	年間
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
20年7月期	—	0.00	—	0.00	0.00
21年7月期	—	0.00	—	—	—
21年7月期 (予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 無

## 3. 平成21年7月期の連結業績予想(平成20年8月1日～平成21年7月31日)

(%表示は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,060	△7.5	△760	—	△760	—	△930	—	△0.79

(注) 連結業績予想数値の当四半期における修正の有無 無

4. その他

- (1) 期中における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) 無  
 新規 一社 (社名 ) 除外 一社 (社名 )

[(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

- (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 有

[(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

- (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更(四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更に記載されるもの)

- ① 会計基準等の改正に伴う変更 有  
 ② ①以外の変更 無

[(注)詳細は、3ページ【定性的情報・財務諸表等】4. その他をご覧ください。]

- (4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	21年7月期第3四半期	1,183,760,884株	20年7月期	1,183,760,884株
② 期末自己株式数	21年7月期第3四半期	20,171株	20年7月期	19,371株
③ 期中平均株式数(四半期連結累計期間)	21年7月期第3四半期	1,183,741,213株	20年7月期第3四半期	1,183,741,834株

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号)及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第14号)を適用しております。また、四半期連結財務諸表規則に従い四半期連結財務諸表を作成しております。
- 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。

## 定性的情報・財務諸表等

### 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、サブプライムローン問題を契機とした国際金融市場の混乱、米国企業の経営不振等、企業を取巻く環境は依然厳しい状況が続いており、個人消費や企業の設備投資も鈍化するなど、国内景気は弱含みの状況で推移いたしました。

このような状況のなか、当第3四半期連結累計期間における業績は、衣料事業につきましては、消費の落ち込みの影響を受け、次第に売上高が減少してきており、厳しい状態が続いております。飲食事業につきましては、集客力の向上と品質のグレードアップに努めてきた結果、順調に売上高を伸ばしてきており、前年同四半期比4.0%増の362百万円を獲得しております。また、不動産事業につきましては、当連結会計年度初めは分譲している土地の販売が順調に推移したものの、第2四半期初めから急激に需要が落ち込んでまいり、苦戦を強いられております。

これらの結果、売上高は前年同四半期比 $\Delta$ 4.1%の809百万円となりました。

売上総利益は、投資事業で保有している有価証券の株価が下落していることから、損失が発生しているものの損失額は前年同四半期と比較すると減少しており、全体の売上総利益は227百万円（前年同期比20.0%増）と若干改善されております。

営業損失は、販売費及び一般管理費を前年同四半期比12.4%減の761百万円とすることができたことから533百万円（前年同四半期営業損失679百万円）となりました。

経常損失は、当第3四半期までに為替差損45百万円が発生したものの、前年同四半期と比較すると若干改善され565百万円（前年同四半期経常損失666百万円）の損失となりました。

四半期純損失は、前連結会計年度に償却済みの債権回収に伴う、償却債権取立益28百万円とその他で特別利益として3百万円が計上されるものの、当第3四半期までに急激な株価下落に伴う金融市場の混乱が発生したことから、当社の保有する投資有価証券についても評価損が発生し213百万円の投資有価証券評価損を計上いたします。また、その他減損損失12百万円の計上により総額226百万円の特別損失を計上することから、四半期純損失は729百万円（前年同期四半期純損失864百万円）となりました。

### 2. 連結財政状態に関する定性的情報

#### (1) 資産、負債及び純資産の状況

##### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は、前連結会計年度末に比べ574百万円減少し2,669百万円となりました。この主な要因は、前連結会計年度に比べ現金及び預金が375百万円、商品有価証券が88百万円、流動資産のその他が前渡金等の減少により135百万円減少したことによります。

##### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産は、前連結会計年度末に比べ254百万円減少し2,269百万円となりました。この主な要因は、投資その他の資産が投資有価証券の評価損等の発生により227百万円減少したことによるものであります。

##### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は、前連結会計年度末に比べ66百万円減少し93百万円となりました。この主な要因は、連結子会社の未払金等の減少により、流動負債のその他が58百万円減少したことによります。

##### (固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債は、前連結会計年度末から1百万円増加し35百万円となりました。

##### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は前連結会計年度に比べ764百万円減少し4,809百万円となりました。この主な要因は、減少要因としては四半期純損失の発生による株主資本の減少729百万円、少数株主持分の減少60百万円と、増加要因としては為替換算調整勘定が25百万円増加しております。

#### (2) キャッシュ・フローの状況

当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という。）は前連結会計年度末に比べ375百万円減少し、当第3四半期連結会計期間末は1,414百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は364百万円となりました。これは主に、税金等調整前当期純損失759百万円、投資有価証券評価損213百万円、商品有価証券増減額88百万円、為替差損益45百万円等によるものであります。

##### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は9百万円となりました。これは主に、子会社株式の取得による支出12百万円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は1百万円となりました。これは主に、短期借入金の純減額1百万円によるものであります。

### 3. 連結業績予想に関する定性的情報

平成21年7月期の通期の連結業績予想につきましては、平成21年3月11日に発表いたしました連結業績予想に変更はありません。

### 4. その他

#### (1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

該当事項はありません。

#### (2) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

##### ①簡便な会計処理

###### ・固定資産の減価償却費の算定方法

定率法を採用している資産については、連結会計年度に係る減価償却費の額を期間按分して算定する方法によっております。

###### ・たな卸資産の評価方法

当第3四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、一部実地棚卸を省略し、第四半期連結会計期間末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算出する方法によっております。

###### ・法人税等の算定方法

法人税等の納付税額の算定に関して、加味する加減算項目や税額控除項目を重要なものに限定して算定してあります。

##### ②四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理

該当事項はありません。

#### (3) 四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

5. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年4月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,414,362	1,789,483
受取手形及び売掛金	7,147	5,422
商品有価証券	136,243	224,467
商品	217,211	203,956
販売用不動産	757,389	743,296
原材料及び貯蔵品	7,912	11,806
預け金	527,389	528,461
その他	101,888	237,501
貸倒引当金	△500,310	△500,250
流動資産合計	2,669,234	3,244,144
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	305,452	320,712
土地	897,808	897,808
その他（純額）	3,057	5,748
有形固定資産合計	1,206,317	1,224,269
無形固定資産		
のれん	29,733	38,748
その他	1,105	1,465
無形固定資産合計	30,839	40,213
投資その他の資産		
投資有価証券	1,445,036	1,661,326
長期貸付金	868,933	871,620
その他	242,340	252,980
投資損失引当金	△570,000	△570,000
貸倒引当金	△953,468	△956,068
投資その他の資産合計	1,032,841	1,259,859
固定資産合計	2,269,998	2,524,342
資産合計	4,939,233	5,768,487

(単位：千円)

	当第3四半期連結会計期間末 (平成21年4月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成20年7月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	28,122	25,867
短期借入金	2,235	3,506
未払法人税等	6,856	16,224
賞与引当金	4,530	3,500
その他	51,583	110,494
流動負債合計	93,327	159,593
固定負債		
長期預り敷金	34,920	34,920
その他	1,012	—
固定負債合計	35,932	34,920
負債合計	129,260	194,513
純資産の部		
株主資本		
資本金	9,376,047	9,376,047
利益剰余金	△4,624,960	△3,895,917
自己株式	△566	△565
株主資本合計	4,750,520	5,479,564
評価・換算差額等		
為替換算調整勘定	13,061	△12,461
評価・換算差額等合計	13,061	△12,461
新株予約権	1,482	1,817
少数株主持分	44,908	105,054
純資産合計	4,809,973	5,573,974
負債純資産合計	4,939,233	5,768,487

(2) 四半期連結損益計算書  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	当第3四半期連結累計期間 (自 平成20年8月1日 至 平成21年4月30日)
売上高	809,174
売上原価	581,662
売上総利益	227,511
販売費及び一般管理費	761,001
営業損失(△)	△533,490
営業外収益	
受取利息	10,625
その他	4,546
営業外収益合計	15,171
営業外費用	
支払利息	31
持分法による投資損失	958
為替差損	45,143
その他	650
営業外費用合計	46,783
経常損失(△)	△565,101
特別利益	
貸倒引当金戻入額	2,540
償却債権取立益	28,570
事業譲渡益	1,002
特別利益合計	32,113
特別損失	
減損損失	12,946
投資有価証券評価損	213,952
特別損失合計	226,898
税金等調整前四半期純損失(△)	△759,886
法人税、住民税及び事業税	5,910
法人税等調整額	△531
法人税等合計	5,379
少数株主損失(△)	△36,222
四半期純損失(△)	△729,043

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

当第3四半期連結累計期間  
 (自 平成20年8月1日  
 至 平成21年4月30日)

営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純損失(△)	△759,886
減価償却費	22,112
減損損失	12,946
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△2,540
賞与引当金の増減額(△は減少)	1,030
受取利息及び受取配当金	△10,625
支払利息	31
為替差損益(△は益)	45,143
持分法による投資損益(△は益)	958
投資有価証券評価損益(△は益)	213,952
売上債権の増減額(△は増加)	△1,725
商品有価証券の増減額(△は増加)	88,224
たな卸資産の増減額(△は増加)	△9,361
販売用不動産の増減額(△は増加)	△14,093
仕入債務の増減額(△は減少)	2,254
その他	43,525
小計	△368,053
利息及び配当金の受取額	11,208
利息の支払額	△31
法人税等の支払額	△7,297
営業活動によるキャッシュ・フロー	△364,174
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△4,400
有形固定資産の売却による収入	524
関係会社株式の取得による支出	△12,946
敷金及び保証金の差入による支出	△24,857
敷金及び保証金の回収による収入	24,675
貸付けによる支出	△500
貸付金の回収による収入	3,416
預け金の回収による収入	13,067
預け金による支出	△11,996
その他	3,343
投資活動によるキャッシュ・フロー	△9,674
財務活動によるキャッシュ・フロー	
短期借入れによる収入	1,502
短期借入金の返済による支出	△2,773
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,271
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△375,120
現金及び現金同等物の期首残高	1,789,483
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,414,362

当連結会計年度より「四半期財務諸表に関する会計基準」（企業会計基準第12号）及び「四半期財務諸表に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第14号）を適用しております。また、「四半期連結財務諸表規則」に従い四半期連結財務諸表を作成しております。

#### （4）継続企業の前提に関する注記

当社グループは、平成19年7月期において経常損失1,009,694千円、当期純損失2,615,795千円を計上しました。平成20年7月期においても経常損失882,632千円、当期純損失2,343,682千円を計上することとなり、2期連続の大幅な当期純損失となりました。また、当第3四半期連結会計期間及び当第3四半期連結累計期間においても四半期純損失を計上しております。この結果、継続企業の前提に重要な疑義を抱かせる状況に該当しております。

このため当社グループは、当該状況を解消し早期業績回復を目指すために、各事業の見直し及び経営戦略の改革を次のとおり進めてまいります。

現在、飲食事業・不動産事業までは黒字化を達成してまいりましたが、衣料事業・投資事業については営業赤字が続いているため、全事業で黒字化が図れるように、業態変更を含めた営業店舗の見直しを推し進めてまいります。

また、投資事業につきましては、現在まで投資してきた資産について、すでに評価減等が発生しているものがあるものの、資金回収を優先しグループの財務基盤を立て直すとともに、今後の投資につきましては、当社グループの体力にあった事業に限定していくことで追加投資の発生を抑え、特別損失の発生要因となる事象を削減してまいります。

さらに各事業とも不採算事業となっているものについては、早急に見直しをかけグループの再編を検討してまいります。

以上の施策により、グループの基盤立て直しを図り各事業の収益力を上げ、売上高増加と経常利益の黒字化を目指すとともに、多額の特別損失の発生を抑えてまいります。

四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

(5) セグメント情報

〔事業の種類別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年8月1日 至平成21年4月30日）

	衣料事業 (千円)	飲食事業 (千円)	不動産事業 (千円)	投資事業 (千円)	その他事業 (千円)	合計 (千円)	消去又は全 社 (千円)	連結 (千円)
売上高								
(1) 外部顧客に對 する売上高	226,216	362,644	215,222	—	5,092	809,174	—	809,174
(2) セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	700	—	—	700	△700	—
計	226,216	362,644	215,922	—	5,092	809,874	△700	809,174
営業費用	260,608	346,815	185,158	95,315	140,286	1,028,183	314,480	1,342,664
営業利益	△34,392	15,828	30,764	△95,315	△135,194	△218,309	△315,180	△533,490

(注) 1. 事業の区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 区分の主な内容

- (1) 衣料事業……………紳士服等の衣料品販売
- (2) 飲食事業……………焼肉店及びコンビニエンスストアの経営
- (3) 不動産事業……………不動産販売及び賃貸
- (4) 投資事業……………有価証券の投資及び運用
- (5) その他事業……………ペット霊園の経営及び金の採掘事業

〔所在地別セグメント情報〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年8月1日 至平成21年4月30日）

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

〔海外売上高〕

当第3四半期連結累計期間（自平成20年8月1日 至平成21年4月30日）

海外売上高がないため該当事項はありません。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

「参考資料」

前年同四半期に係る財務諸表等

(要約) 四半期連結損益計算書

前第3四半期連結累計期間(平成19年8月1日～4月30日)

科目	前年同四半期 (平成20年7月期 第3四半期)
	金額(千円)
I 売上高	843,930
II 売上原価	654,331
売上総利益	189,599
III 販売費及び一般管理費	868,714
営業利益(△:損失)	△679,114
IV 営業外収益	21,924
V 営業外費用	9,802
経常利益(△:損失)	△666,993
VI 特別利益	211,422
持分変動損益	182,854
その他	28,568
VII 特別損失	442,405
貸倒引当金繰入額	259,195
投資有価証券評価損	182,155
その他	1,054
税金等調整前四半期純利益 (△:損失)	△897,976
税金費用	6,140
少数株主利益(△:損失)	△39,898
四半期純利益(△:損失)	△864,218